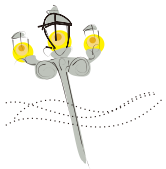
「NPO」ワンポイント・アドバイス

～もっと良い会議をつくるコツ その２「七つ道具を活用しよう 後編」～

＊前編は、はこまち通信　第 13 号に掲載しています。

活動に会議はつきものです。より効果的で楽しく、参加者全員の意見が反映される会議ができると、団体の活動もより活発になります。そこで、前回に引き続き「もっと良い会議」にするためのコツをご紹介します。



❹ ノートパソコン

会議をしながらその場で会議録を作成し、そのままメーリングリストで流すようにすると手間が省けますし、より早く正確な記録を共有できます。ただしノートパソコンだらけになると違うことをしている人が出たり相手の顔が見えなくなったりするので、使用するのは１台のみにしましょう。

❺ ＣＤラジカセ

静かすぎる空間は緊張を生んでしまいます。会議のトーンやテーマ、時間帯等に合わせ、効果的な選曲をしてＢＧＭを流したり、時には、拍手やファンファーレ等の効果音を使うのもオススメです。

❻ スピーキング・ウッド（おしゃべり棒）

マイクのように、この棒を回して会議をします。持った人が話し、それ意外の人は敬意を持って聴きます。

棒の回し方は色んな方法がありますが“ 木の棒 ”以外に、“ 団体の活動を象徴するかけがえのない感じがするもの “ を使うと良いでしょう。

❼ 実物

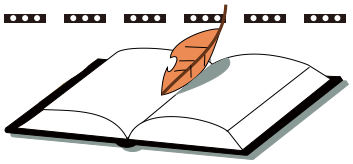
会議のテーマに関係した“ 実物 ”を手元に置くことで「机上の空論」になることを防ぎましょう。写真、手紙、映像、チラシ、現場に出向いて･･･なるべくリアルなイメージを共有しましょう。

相談希望の方は、まちセンへ

まちづくりセンターでは、もっと具体的な「良い会議のつくりかた」についての相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研所発行『ＮＰＯマネジメント』

センター長のつぶやき　　丸藤 競



『はこまち通信』で私がつぶやき始めたのは、平成１９年の６月からでした。その頃はツイッターなんて言葉は知らずに、つぶやいていました。それが今では世界中の人がつぶやきあうようになってしまいました。時代の変化は本当に激しいですね。

実は私も、数か月前からツイッターを始めたのですが、そこであらためて確認したのは「現場」の大切さです。ツイッターはブログ以上に「現場」からの生の言葉があふれているように思います。それが、急速に広がった理由のひとつだと思います。

まちづくりで最も大切なのは、この「現場」です。「現場」を見て、「現場」で考える。これを忘れてしまっては何もできません。私も「現場主義」をより深めるため、まちを歩いたり見たり聞いたり、を大切にしていきたいと思います。そして、その声を様々な形で発信していきたいと思います。